

1. 評価報告概要表

評価確定日

平成21年8月24日

【評価実施概要】

事業所番号	1572400172
法人名	医療法人社団 萌気会
事業所名	萌気園グループホームふきのとう
所在地	新潟県南魚沼市浦佐334 - 3 (電話) 025 - 780 - 4888

評価機関名	社団法人 新潟県社会福祉士会
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階
訪問調査日	平成 21年 6月 19日

【情報提供票より】(21年 5月 16日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12年 7月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 8人
職員数	8人 常勤 5人、非常勤 3人、常勤換算 7.05人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り 2階 建ての 1階 ~ 2階 部分
------	----------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,500 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円)	無	無
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 無
食材料費	朝食 円	昼食 円	
	夕食 円	おやつ 円	
	または1日あたり	1,120 円	

(4) 利用者の概要 (21年 5月現在)

利用者人数	7名	男性 1名	女性 6名
要介護1	0名	要介護2	1名
要介護3	2名	要介護4	1名
要介護5	3名	要支援2	0名
年齢	平均 89.3 歳	最低 80 歳	最高 101 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	萌気園浦佐診療所
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、豊かな自然に囲まれた南魚沼市(旧六日町)の浦佐駅からすぐのところの位置している。民家を改築した建物であり、一般家庭と同様の雰囲気や生活環境がある。職員は、利用者一人ひとりと自然体で向き合いながら、利用者のその人らしさを大切に支援の実践に努めている。そのような中で、利用者が穏やかに安心して生活している様子が伺えた。
運営母体は、利用者の「地域での生活」を支えていくため、地域に根ざした在宅医療や在宅介護事業を積極的に展開している医療法人である。法人との協力・連携体制も確立しており、利用者がその人らしく最期まで暮らせるよう看取りケアにも取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価結果をもとに、改善に取り組んだ。「評価の意義の理解と活用」では、目的や意義について理解を深め全職員で実施した。「運営推進会議」には全職員が参加するようにして積極的に意見交換し、会議をより有効に活用できるよう努めている。「これまでの暮らしの把握」では、センター方式のアセスメントを活用してさらなる把握に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者、職員は、自己評価を日頃の実践がどうだったかを見直し、ホームの方向性を共有する場として捉え、前向きに取り組んでいる。今回の自己評価は、全職員が書き込み、ミーティングで意見を出し合ったりすり合わせを行った。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>2か月に1回開催している。運営状況や活動予定、外部評価の結果等を報告し、活発な意見交換が行われている。家族から日頃聞けない率直な意見や思いを伺い、職員に周知し、家族との関係が深められるように努めている。また、町内会より地域の催しの参加を提案され、現在は定期的に参加する等、会議を活かした取り組みを行っている。地域包括支援センターの職員を中心に運営推進会議を進め、地域との関係作りにも努力している。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族等の面会時を、意見や要望を聞く良い機会であると捉え、職員から積極的に声をかけている。共有スペースに掲示しているスナップ写真を見て日頃の様子を伝えたり、利用者も交えて一緒にお茶を飲んで過ごすなどしながらコミュニケーションを図り、信頼関係を構築するように努めている。重要事項説明書には苦情受付・対応方法の内容を明記しており、また、利用者、家族が間接的にも意見・要望を出せるよう意見箱も設置している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>利用者が地域の一員として暮らしていけるよう地域との関係づくりをすることを意識し、日常的な散歩や買い物の中で地域住民と接したり、町内会の行事や集いに参加するなど、積極的な交流を図っている。運営推進会議などでもホームの理念や活動について具体的に説明して地域の理解を深めるよう努めている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

↓ 取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成21年度に理念を見直し、地元環境を活かし家庭的な雰囲気の中でその人らしさを大切にするという、ホーム独自のわかりやすい理念を職員全員で作り上げた。また、職員の行動目標も具体的に掲げている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所の理念・目標は、職員が意識しやすいよう居間にわかりやすく掲示されている。職員全員が理解して、日々の実践の中で意識し、職員同士で確認しあいながら取り組んでいる。		
	2-2	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるように取り組んでいる	家族には、契約時や面会時、毎月のお便りなどで理念について説明し、理解してもらっている。地域に対しては、買い物や美容院など日々地域に出て交流する機会や、運営推進会議、町内会の集まりなどの場でホームの存在や理念を伝え、理解浸透を図っている。		
2. 地域との支えあい					
	3	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の町内会や婦人会から行事や活動の案内をもらい、参加して交流を図っている。また、地元の商店街に出かけたり、美容院に行ったりしながら地域の方々と交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	4	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者や管理者、職員はサービス評価の意義や評価内容を学んでいる。自己評価も職員全員で話し合い作成し、評価結果をもとに改善に取り組んでいる。		
	5	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行ない、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、議事録も作成されている。会議では、ホームの行事、活動、利用者の状況等を報告し、参加者から意見を得ている。職員も全員参加するようにし、会議での意見等を活かしてサービス向上に向け取り組んでいる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の主催により、市内の地域密着型サービス事業所が集まる会議が毎月1回開催されており、意見・情報交換や研修などを行っている。市担当者とはいつでも相談したり、情報交換できる関係ができている。		
6 - 2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体として虐待に関する研修会が行われ、管理者・職員は高齢者虐待について理解している。		今後、高齢者虐待防止のマニュアルや研修記録・資料等を整備し、対応の統一やケア水準の確保に活用していくことも期待したい。また、これらの資料をもとに、ホームでも研修会や勉強会、事例検討を開催するなど、職員が知識や対応をよりいっそう深められるようさらなる取り組みを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、請求書を自宅にお届けする際や、ホーム便り、面会時等において、利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について報告している。より利用者の様子を理解して頂けるように、写真を多く撮って報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情相談窓口について掲示し、意見箱も設置している。面会時には、家族から意見や相談等を聞くように心がけており、家族の声を大切にしている。個々の利用者へのケアに活かしている。		
8 - 2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に1回、職員が意見や提案を表出する機会として、職員アンケートを実施している。また、ホームの主治医である法人理事長が、定期的な往診の際などに職員に声をかけており、日頃から運営者にも意見が言える環境がある。管理者と職員との意見交換も日常的に行われている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での定期的な異動は行われるが、運営者が職員全員からアンケートをとり、意見や要望などを聞き入れて必要最小限の異動にとどめ、利用者へのダメージを最小限に抑えるように配慮している。		
9 - 2	18 - 2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている	感染症等のマニュアルが整備され、職員も目を通したり、確認し合ったりして話し合うなどして理解している。高齢者虐待や身体拘束、事故防止等についてのマニュアルは整備されていない。また、見直しの機会もまだ設けられていない。		職員の交代時や新採用時などにもケア水準の確保ができるよう、各種マニュアルのさらなる整備に期待したい。また、マニュアルの見直しも継続的に行い、ホームの現況にあったマニュアル整備し活用していくことも期待する。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、法人内外の研修に積極的に参加するように職員に勧めており、計画的に職員全員が学べる環境を整えている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	南魚沼市・魚沼市・十日町市管内でグループホーム協議会が設置されており、各事業所の意見交換や情報交換、勉強会等が実施されている。相互に交流を深め、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
11 - 2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者は年1回、職員全員を対象にしたアンケートを行い、職員の思いや考えを聞いている。管理者も、日常的に職員の意見や要望を聞き、運営に取り入れるようにしている。職員同士では小さなことも指摘し合える関係が作られており、親睦会等を通じてコミュニケーションをはかりストレスの軽減に努めている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にはホームでお茶飲み会などを実施したり、ホームを見学してもらう機会を設けている。その際にホームの機能の説明を行なうほか、本人の希望や思いを聞いたり、普段の暮らしぶりや生活の様子などの情報収集をしている。入居後も、家族等とも相談しながら、徐々に雰囲気に馴染めるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、本人や家族等からどんな暮らしをしたいか、過去の経験や好み、習慣などの情報を得るように努めている。その情報を活かして、料理、掃除、生け花、手芸などの得意なこと、好きなことを見出し、本人が主体的に活動できるよう支援している。		
13 - 2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族との会話の中から本人の生活歴や過去の経験などの情報を得て日々の支援に活かしたり、ケアに対する家族の要望を聞いて介護計画に取り入れるなどしている。本人の日々の様子をより家族に知ってもらえるよう、写真をたくさん撮り、情報共有している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	管理者は、利用者の行動や表情の真意を把握することが大事であることを日頃から職員に伝えており、職員は、利用者が思いや意向を伝えやすい関係づくりを心がけ把握に努めている。言動等からの把握が困難な時は、生活歴や暮らしぶりなどの情報を活かしたり、家族に相談しながら本人本位に検討している。日々の関わりから得られた情報は、センター方式のアセスメントツールを活用して収集し、職員間で共有している。		
14 - 2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の今までの暮らしをより深く把握するため、センター方式の様式を活用してアセスメントを行なっている。入居前だけでなく入居後も、本人や家族から生活の様子や仕事の経験、趣味などについて聞き取りを行い、ホームの生活に活かすようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員は、日々の暮らしの中で利用者のやりたいことや希望を聞くよう努めており、それぞれがカンファレンスで意見を出し合い、情報共有を図っている。医療機関や関係者の意見、家族の希望も取り入れながら担当者会議で検討し、利用者中心の具体的な介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、月1回全職員でモニタリングを行い、6か月毎ないしは必要に応じて都度、見直しを行っている。また、状態等の変化があった場合はその都度管理者と家族で話し合いを行い、見直しを行っている。モニタリングや家族との話し合いの内容も全職員に周知されている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な対応					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況やその時々々の要望に応じて、受診、買い物、散歩、外出、緊急対応等の支援を柔軟に行っている。また、同一法人の他事業所からの協力体制のもとで、看取りケアが実践されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同一法人の診療所の医師による往診や、入居前からのかかりつけ医への受診など、本人、家族等の意向により対応している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	同一法人の診療所の主治医や訪問看護事業所等との連携・協力体制があり、本人や家族の意向を確認しながら、終末期や看取りケアを実施している。職員は、終末期や看取りケアについての知識や理解を深め、統一した対応をとれるようにしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳を損ねるような言葉かけや対応はなく、その人に合わせた優しい語調での会話がされている。排泄の誘導、声かけなども、プライバシーに配慮してさりげなく行われている。個人の記録等についても、利用者や来訪者の目に触れるところで取り扱わないようにしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、利用者一人ひとりの生活の違いを理解し、本人の生活のペース、したいことや自発的に行なうことに合わせて過ごせるよう支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の健康状態や嗜好、習慣等を踏まえて献立を作成している。食事の準備、お茶淹れ、食器の片付けなど、利用者一人ひとりが好きなことやできることを一緒に、自然に行えるよう支援している。食事も利用者職員と一緒に、和やかな会話をしながら食べている。		
22 - 2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者一人ひとりの排泄パターンや表情等のサインを把握するよう努め、声かけや誘導など個々に応じた支援をしている。失敗を減らせるよう、支援方法は随時見直している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望を確認しながら時間や曜日を決め、また、一人ひとりのその日の健康状態や気分を見極めながら入浴を支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	これまでの生活歴や嗜好、現在の本人の能力に合わせて役割を担ってもらう場面を設けている。また、希望に応じた嗜好品・日用品の買い物や馴染みの人に会いに出かける等、一人ひとりの気持ちに沿った楽しみごとや気晴らしの場が作れるように取り組んでいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの周りは住宅地だが、花壇や畑があり、日常的に散歩に出かけて外の空気を感じており、利用者の楽しみになっている。その他にも、その日の天候や利用者の希望、体調に合わせて、近隣の買い物、外食など積極的に戸外に出かけている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
25 - 2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はもちろん、言葉による行動制限も行わないことの大切さを職員は理解しており、拘束や行動制限をしないケアに取り組んでいる。		今後はマニュアルを整備し、対応の統一やケア水準の確保に活用していくことも期待したい。また、マニュアルをもとに研修会や勉強会、事例検討を開催するなど、職員が知識や対応をよりいっそう深められるようさらなる取り組みを期待したい。
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関や居室は鍵をかけないようにしている。玄関にはセンサーも用意されているが、職員同士で意識し合い、見守りや声かけを行うことにより、利用者に安全を確保できるよう対応している。		
26 - 2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット事例や事故が起きた場合は報告書が整備され、その日のミーティング、カンファレンスで改善計画を検討し、再発防止に努めている。		事故防止マニュアルや、個々の利用者と考えられるリスクや注意事項をまとめるなど、誰もが確認・共有できる資料を整理し、さらなる事故防止に活用してはどうか。
26 - 3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行なっている	法人内の看護師や協力病院の医師と24時間連絡をとることができ、いつでも相談や助言をもらえる体制が整っている。利用者の状態や急変時に備え、AEDの設置も予定されている。		今後、急変や事故が起きた場合の初期対応や応急対応等の方法の整備が検討されているので、マニュアルの作成・活用や実地訓練など、さらなる取り組みを期待したい。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるように働きかけている	年2回は消防訓練を実施しており、消防署と話し合いながら、避難場所や避難方法を確認している。運営推進会議の場では、地域住民、隣家、関係機関等との災害時の協力や支援について話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日を通じて利用者一人ひとりの食事を記録し、分量も把握している。献立は、法人の管理栄養士が利用者の健康状態や嗜好、習慣、郷土料理などを考慮しながら、栄養やカロリーのバランスがとれたものを作成している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家を改築した建物であり、木の質感が用いられ、落ち着いた色調である。リビングは広く、観葉植物や利用者の生けた花が飾られて季節感を感じることができる。カレンダーや写真、置物などで家庭的な雰囲気作りをしており、また、これらの装飾品は利用者の目線や動線を意識して飾られている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員は、個々の利用者の希望にそって、居心地良く落ち着いて過ごせる居室づくりに努めている。使い慣れた家具、調度品が持ち込まれており、一人ひとりに応じて、畳を敷いたり、目覚まし時計や家族の写真を置くなどしている。壁にはカレンダーや手作り作品を飾り、温かみのある居室づくりがされている。		